

第21回 全国風サミット in くずまき



上外川の風力発電施設を視察する参加者

第21回全国風サミットinくずまき（主催・同実行委員会、会長・鈴木重男町長）は9月15日と16日、役場新庁舎多目的ホールなどで行われ、風力発電を推進する全国の自治体や企業、大学、団体の代表者など約1300人が参加しました。

本町では平成12年以来2回目の開催となった全国風サミットは、町内の小学校1、2年生44人が奏でるバイオリン演奏「きらきら星」で幕を開けました。
鈴木町長は「地域経済の活性化と持続可能な地域社会の構築に向け、サミットのテーマを『風力発電の可能性と未来』としました。この機会が、風力発電のさらなる発展につながるものと確信します」と挨拶しました。



オープニングを飾ったバイオリン演奏

基調講演では、能村幸輝さん（経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー課長）が「風力発電拡大に向けた政策・課題について」と題して国の取り組みを説明。また、記念講演では三保谷明さん（一般社団法人日本風力エネルギー学会会長）が「多様な風車が支えるカーボンニュートラル社会」と題し、風力発電の可能性を述べました。

その後、講演の講師2人に加え四戸聡さん（岩手日報社論説委員長）と鈴木町長がパネラーとなり、牛山泉さん（学校法人足利大学名誉教授）をモデレーターに、パネルディスカッションを開催。「風力発電と地域振興」をテーマに、パネラーが熱く意見を交わしました。（次ページ掲載）

締めくくりに、觸澤義美副町長が大会宣言を朗読し、参加者は風力発電と共に発展する地域づくりに心を一つにした。



大会宣言を読み上げる觸澤副町長と拍手を送る参加者

たほか、引き続き開催された交流会でも熱心な情報交換が行われました。
翌16日にはエクスカージョン（視察）が行われました。参加者は、上外川のグリーンパワーくずまき風力発電所で、ドローンを活用した風車のメンテナンス作業などを見学したほか、くずまきワイン、畜ふんバイオガスプラントなどを訪れ、町のさまざまな特色ある取り組みに関心を寄せていました。

パネルディスカッション

風力発電と地域振興

●モデレーター

牛山 泉（学校法人足利大学名誉教授）

●パネラー

能村 幸輝（経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー課長）

三保谷 明（一般社団法人日本風力エネルギー学会会長）

四戸 聡（岩手日報社論説委員長）

鈴木 重男（葛巻町長）



足利大学 牛山 泉 名誉教授

固定価格買取制度（FIT）の見直し

牛山 再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT）の見直しについて伺います。
能村 FITは、導入後10年を経過し、より地域に貢献し、経済循環を生み出すものとしてバージョンアップしなければなりません。国としてあらゆる選択肢を考えていきます。

鈴木 FITは国民負担の制度ですが、現在はエネルギーの供給に積極的に取り組む地方と、電力需要の多い都市とが同じ負担割合です。発電事業に長く取り組んできた地方

に、より恩恵がある制度になるよう期待しています。

（※）固定価格買取制度（FIT）

事業者が風力や太陽光などで発電した電力を、電力会社に固定価格で買い取ることを義務付けた制度。費用の一部は「再エネ賦課金」として利用者が負担している。

風力発電のさまざまな方向性

牛山 岩手日報で地域の取り組みを伝えてきた四戸さんは、講演をどのように聴かれましたか。

四戸 能村さんは、大規模な洋上風力を推進する国の方針



経済産業省 能村幸輝 課長
日本風力エネルギー学会 三保谷 明 会長

能村 相反する概念に聞こえたかもしれませんが、さまざまな地域資源を最大限に生かすことが大切だと考えます。目的と手段を最適化して、それぞれが取り組むことが重要です。

これからの再生可能エネルギーと地域

牛山 これからの再生可能エネルギーと地域振興をどのように考えますか。

能村 発電事業は、土地開発や環境への影響をしっかりと考え、事業者からの情報提供と地域の理解に基づく事業にしていくべきでしょう。

三保谷 風力、太陽光、小水力など再生可能エネルギーを



岩手日報社 四戸 聡 論説委員長
鈴木重男 町長

組み合わせたハイブリッドの可能性を、地域や関係機関と合意形成しながら考えていくことが必要です。

四戸 風力発電がより地域の多様な産業と結びつき、その仕事若くは人たちにとって魅力あるものになって欲しいと思います。

鈴木 今後は、クリーンで安価な電力を地産地消し、都市部の企業を海外ではなく地方にシフトさせるような仕組みを実現させたいです。風力発電が町を活性化させ、地域が誇る事業になるよう、官民連携を進めていきたいと思